

平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	リノベーションデザイン	担当教員	今田太郎・柴田良一・中谷岳史
学年学科	2 年次 建設工学専攻	前期	選択 2 単位
学習・教育目標	(D-2 設計・システム) 100%		JABEE 基準 1 (1): (d)
授業の目標と期待される効果： 我が国の建設市場は、スクラップアンドビルド型からサステイナブル型に変化しつつあり、建築物の再生（リノベーション）が求められている。 本授業では、計画、環境、構造といった様々な視点からリノベーションのデザイン手法や考え方について学ぶ。そのことによって、建設技術者が持続可能な社会における役割を理解し、建設技術者として必要な社会的視野を身につける。具体的には以下の項目を目標とする。 ①リノベーションに関わる諸問題を把握できる。 ②リノベーションを実践するための考え方を理解する。 ③リノベーションデザインを学生の視点から実際に提案する 【オムニバス方式】 計画的な内容：今田 時代や社会の変化によって魅力を失いつつある既存施設・空間について、まずその機能を把握すると共に問題を抽出し、特性や立地環境など様々な条件を考慮して、効果的な用途変更の可能性、つまり新たな利活用を行うための手法を身につけることを目的とし、その事例や技術を講義する。 構造的な内容：柴田 リノベーションにおける用途変更に対応して、構造条件の変化に対応した構造補強技術の手法を紹介する。さらにリノベーションの改修工事において耐震補強も合わせて行うための、構造工学的な基本的な知識や技術を講義する。 環境的な内容：中谷 リノベーションの計画に際し、日照・採光や断熱・通風など、環境設計手法を紹介する。さらに実際の敷地計画や建物設計のため、建築環境工学的評価の知識やシミュレーション手法を講義する。		成績評価の方法： 各課題 100 点とし、総得点に占める得点率で評価を行う。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： 下記の 3 つとする ①リノベーションに関わる基本的諸問題を把握できた。 ②リノベーションを実践するための基本的な考え方を修得できた。 ③リノベーションデザインについて現実に即した提案ができた。	
授業の進め方とアドバイス：現場調査など学外学習が中心となるため、夏休み等を利用した集中講義の形態を取る事がある。授業は、授業形態は、主担当教員が構成する授業に、適宜、他教員が参加するスポットライト方式とし、今田が 10.5 回担当し、柴田、中谷が各 2.25 回担当する。柴田、中谷は演習の適切な段階において、授業に参加し、アドバイスをを行う。			
教科書および参考書：			
授業の概要と予定：前期		教室外学修	
第 1 回：授業の概要説明、課題提示、敷地、図面情報共有		先行事例の検索	
第 2 回：現地調査（変更の可能性あり）		現地調査結果のとりまとめ	
第 3 回：現地調査結果の分析ワークショップ：可能性、課題抽出		ワークショップの技法のまとめ	
第 4 回：リノベーション事例検索結果の発表		事例検索結果の整理	
第 5 回～7 回：リノベーション案の作成ワークショップ 適宜、専門教員によるアドバイス・意見交換		計画案の作成	
第 8 回：現地ワークショップ（仮想ユーザー・地域住民）			
第 9 回～第 14 回：リノベーション案作成ワークショップ 適宜、専門教員によるアドバイス・意見交換			
第 15 回：講評会（現地で実施。仮想ユーザー・地域住民）			
第 16 回：フォローアップ（課題解説）			